

令和4年 3月「月報」

1 はじめに

オミクロン株などによる新規感染者の増加率は鈍化していますが、病床使用率が高止まりの様相です。3月1日現在、全国で65,434名の新規感染者となっています。

これを受け、政府は、3月6日まで新型コロナウイルス対策のまん延防止等重点措置を適用している31都道府県のうち、首都圏、中京圏、関西圏の10都府県などに約2週間程度の延長を想定しており、今週中に決定する予定です。

2月以降、全国各地で入隊・入校予定者激励会が予定されていましたが、オミクロン株などの感染拡大を受けて、3年連続して中止または縮小開催（入隊者等のみの参加）が多くなっています。

各県家族会は、地方協力本部（広報官）と協力して入隊者家族宅を訪問し激励品を贈呈、あるいは「入隊祝いの手紙（家族会パンフレット同封）」をご家族宅へ郵送するなど工夫を凝らし新規会員獲得に努めています。

一方、トンガ王国被災民の救援のために派遣された国際急援助活動統合任務部隊（輸送艦「おおすみ」を基幹とする約300名）は、2月8日にトンガ王国の首都ヌクアロファの国際港に着岸後、飲用水や火山灰除去用の高圧洗浄機などを被災住民に届けるなど、救援活動を行っていましたが、2月17日をもって支援を終了しました。

また、トンガ王国国際緊急援助空輸隊のC-130H×2機（第1輸送航空隊：小牧基地）及びC-2×2機（第3輸送航空隊：美保基地）は、1月22日から2月2日までの間、オーストラリアの東部のアンバレー空軍基地を拠点にトンガ王国への物資空輸を担っていましたが、「おおすみ」が到着し支援物資の引き渡しのめどがついたことから、2月10日以降は、日本で待機をしていましたが、同じく2月17日をもって国内待機を終了しました。

本会は、愛知県家族会のご協力を得て、2月21日にトンガ王国国際緊急援助空輸隊の第1輸送航空隊へ慰問・激励を実施しました。なお、第3輸送航空隊とは鳥取県家族会が慰問・激励時期を調整中です。

2 防衛省・自衛隊の活動

（1）大規模接種センターのワクチン接種回数の拡大運営

2月2日の衆議院予算委員会において、岸田総理大臣は、「1日100万回の接種を目指す」と発言しました。これを受け防衛省は、以下のように接種回数を拡大し国民の3回目ワクチン接種を加速させる予定です。

ア 自衛隊東京大規模接種センター(東京会場)

1月31日から運営を開始し、1日あたり2160回で接種を行っていましたが、2月10日からは5,040回に拡大し運営しています。

イ 自衛隊大阪大規模接種センター(大阪会場)

2月7日から大阪市内の八木ビルで運営を開始し、1日あたり960回の接種を行っていましたが、2月14日から2か所に大規模接種会場を増やし、1日当たり2,500回に拡大し運営中です。

(2) UNMISS 司令部要員の岸防衛大臣への帰国報告

2月14日、UNMISS 司令部での約1年間にわたる勤務を終え帰国した中村美雄3等陸佐(兵站幕僚)及び金塚友成3等陸佐(航空運用幕僚)は、岸防衛大臣に対する帰国報告を行いました。



中村3佐(左) 岸大臣(中) 金塚3佐(右)

3 家族会の活動

(1) 北方領土返還要求全国大会

2月7日、令和4年の北方領土返還要求運動全国大会が、国立劇場(千代田区)で開催されました。新型コロナウイルス感染防止のため、今年も残念ながら無観客で行われ、大会の様子はYouTubeで全国へ配信されました。

岸田総理大臣は、「安倍元総理大臣とプーチン大統領による2018年のシンガポールでの合意などを踏まえ、粘り強く交渉を進めていく考え」を強調しました。

引き続き林外務大臣の挨拶後に、『署名活動の現場から』で本会の道満誠一運営委員が、「自衛隊家族会はこれまで累計約820万筆の署名を行っており、コロナ禍にあっても引き続き積極的に署名活動に取り組む決意」を力強く表明しました。

元島民、返還要求運動団体や若い世代の代表士への思い、運動への決意などを発表し、最後に大会アピールが採択され、政府と国民が一体となって返還要求運動を推進するとの決意を表明し大会を終了しました。

署名活動は本会の主要な活動であり、返還に向け今後も国民の意思を示し続けるため、継続して参りますのでご協力をお願い致します。



壇上で決意表明する道満運営委員



署名活動の現場から発言する道満運営委員

(2) トンガ王国国際緊急援助空輸隊等への慰問・激励（愛知県自衛隊家族会）

2月21日、愛知県家族会（堀川孝一会長）は、国際緊急援助活動空輸隊としてC-130H×2機をもってトンガ王国への物資輸送を担当した第1輸送航空隊（小牧基地）への慰問・激励を担当しました。

当日は、堀川会長と桜井副会長が小牧基地を訪問し、派遣空輸隊等指揮官の渡邊琢也空将補（第1輸送航空隊司令）及び現地派遣部隊指揮官の藤井浩1等空佐（第1輸送航空隊飛行群司令）へ激励品（スポーツタオル250枚）を贈呈しました。

第1輸送航空隊は、1月20日夜急遽オーストラリアへ向けて出発したため、じ前の激励ができず、新型コロナウイルスの帰国隔離を経て、ようやく21日の激励となりました。



渡邊司令に激励品を贈呈する堀川会長
後列（藤井群司令と桜井副会長）

(3) 第47次派遣海賊対処行動航空隊への慰問・激励（青森県自衛隊家族会）

2月22日、青森県家族会（野呂和生会長）は、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処のために派遣される第47次派遣海賊対処行動航空隊（隊司令：西宮友樹2等海佐）への慰問・激励を担当しました。

当日は、野呂会長が八戸基地を訪問し、第2航空群司令の降旗海将補へ慰問・激励品を贈呈しました。

降旗司令は、「コロナ禍において、派遣要員の健康をいかに維持するかに苦慮しており、3月上旬の出国に向けて予断を許さない状況にある」と述べました。



降旗司令に激励品を贈呈する野呂会長

(4) 「家族会加入促進施策への協力に関する協定書」の締結（宮崎県自衛隊家族会）

昨年12月10日、柳田晃宮崎県自衛隊家族会会長は、自衛隊宮崎地方協力本部長（石原信也1等空佐）との間において、『宮崎県自衛隊家族会加入促進施策への協力に関する協定書』の締結を行いました。

本協定書は、宮崎地方協力本部が、入隊予定者及び隊員家族等の同意を得た『入隊予定者情報』を宮崎県家族会に提供するに



石原宮崎地本長（左）と柳田会長（右）

あたり、相互に遵守すべき事項を定めたものです。

本協定により、宮崎地方協力本部から『入隊予定者情報』を家族会へ提供することが可能となり、「宮崎県家族会への入会が促進される」と柳田家族会会長は述べました。

なお、本協定締結は、神奈川県・長崎県家族会に次いで、全国で3例目となります。（2月月報での東京都家族会の協定締結を3例目と記載したことを4例目に訂正してお詫び申し上げます。）

（5）コロナ禍の家族会活動

ア 新潟地方協力本部との更なる連協強化を理事会で確認（新潟県自衛隊家族会）

2月6日、新潟県家族会（早川澄男会長）は、オミクロン株の感染が急拡大する中、新潟地本の支援を受け、令和3年度の理事会を市内ホテルにて開催しました。

理事会の開始に先立ち、早川家族会会長から、令和3年度の本部表彰において「最優秀賞初受賞」の報告がなされ、全会員への感謝の挨拶がありました。

引き続き、横澤同事務局長から令和3年度「事業報告」「収支決算報告」、令和4年度「事業計画」「収支予算」が提案され、その後質疑・応答が行われました。

質疑の中で、新型コロナの感染を受け、「入隊・入校予定者等激励会が自粛されることにより、新規入会者の獲得に苦労する」との意見が多数寄せられましたが、「1名でも多くの増勢を！」を合言葉に、新規入会者獲得に向け努力することを誓いました。また、新潟県家族会は、コロナ禍であっても、新潟地本の募集、援護、広報活動に労を惜しまず支援を行い、更なる連携強化に努めることを確認しました。



挨拶する早川会長



理事会での真剣な様子



最優秀賞副賞の幟

イ オリジナル缶バッジの作成・配布（兵庫県 伊丹自衛隊家族会）

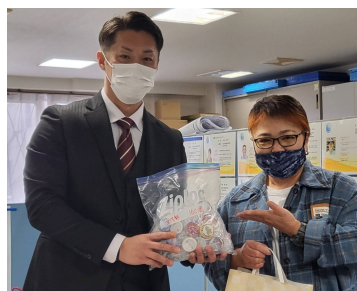
1月14日、伊丹自衛隊家族会（高木清志会長）は、同女性部（豊田幸子部長）が作成したオリジナル缶バッジ100個を兵庫地本伊丹地域事務所に寄贈しました。

同家族会では、コロナ禍で入隊・入校予定者激励会などの行事が中止となり、特に新会員獲得が非常に厳しい状況になっていることから、少しでも有効な手だてを模索しながらの活動として、オリジナル缶バッジの作成・配布を企画しました。

缶バッジは、豊田部長を中心に女性部会員が、仕事の合間を縫ってコツコツと作成したもので、広報官が行う入隊希望者への説明会や自衛隊広報活動の一助として対象者に配っていただくとともに、家族会のアピールも兼ねて作成しました。



オリジナル絆バッジ



広報官へ絆バッジを贈呈する豊田部長

(6) 入隊・入校予定者激励会への参加（京都府自衛隊家族会 京田辺地区会）

2月22日、川嶋幸雄京都府自衛隊家族会京田辺地区長は、京田辺市主催の入隊・入校予定者激励会に参加しました。

当日は、京田辺市からの5名の入隊・入校予定者のうち4名（陸自一般幹補生×1、陸自一般曹候補生×1、陸自自補生×1、高等工科学学校学生×1）が参加しました。

最初に、巻口公輔京都地本長から、「ご家族への感謝と入隊者等への激励の言葉」が贈られ、次いで上村崇京田辺市長から、「市民の誇りを持って入隊することを讃えた激励の言葉」が贈られました。

最後に、川嶋幸雄地区会長が、入隊・入校予定者達の勇気と心意気を讃えて祝辞を述べ、激励品を贈呈しました。



入隊・入校予定者4名を囲んでの祈念写真